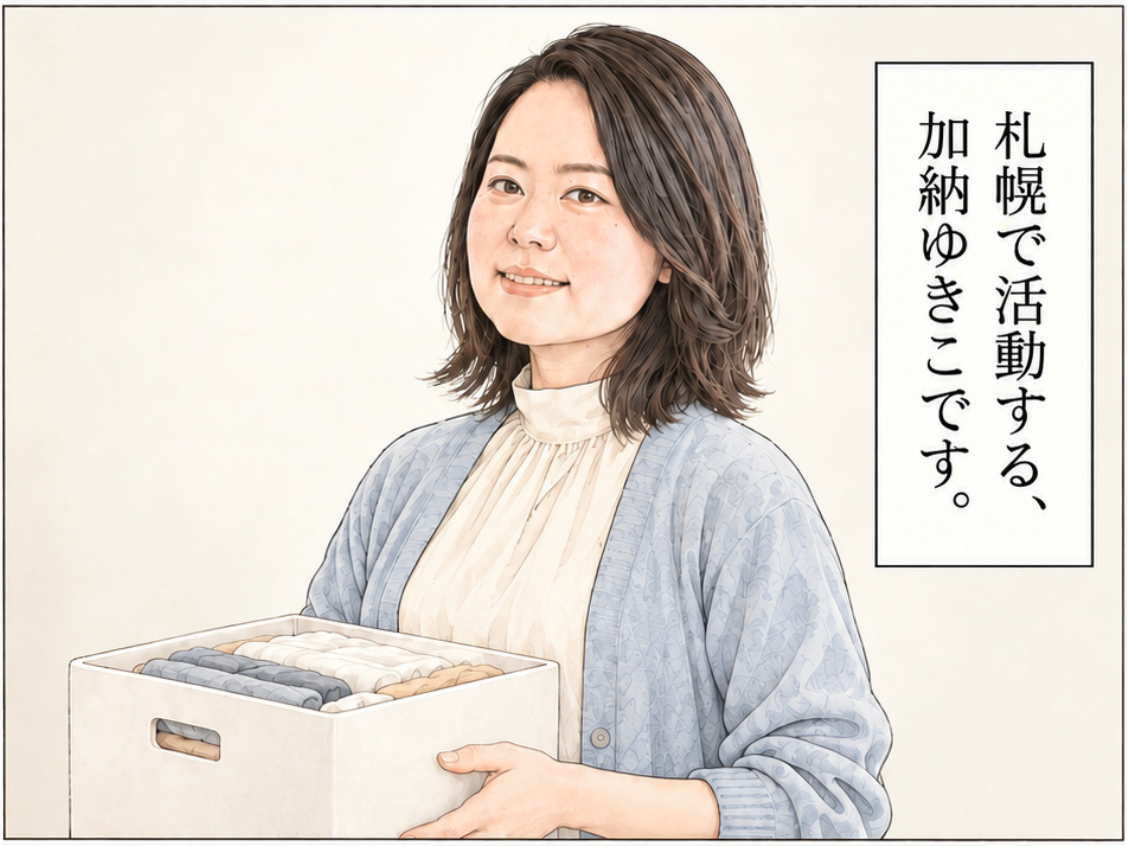
片づけの先に、
やりたいことをやる時間を。



加納ゆきこのストーリー

アレーズルームｙ


札幌で活動する、
加納ゆきこです。


3人の子どもを
育てながら、
片づけを
お手伝いしています。


でも、
私も片づけが
苦手でした。

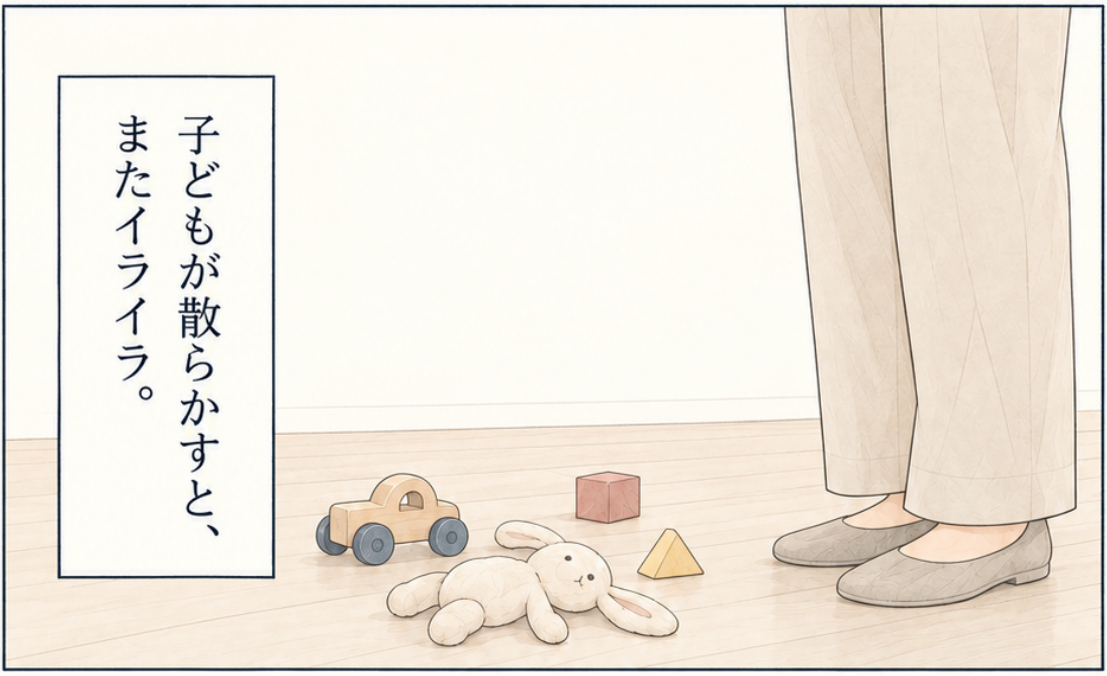

部屋がそれほど
散らかっていなくても、


見えないところに、
ぎゅうぎゅうに。


押し入れに詰め込む
タイプだったんです。


使いたいときに、
見つからない。
また買ってしまう
こともありました。
探しものに、
イライラしていました。

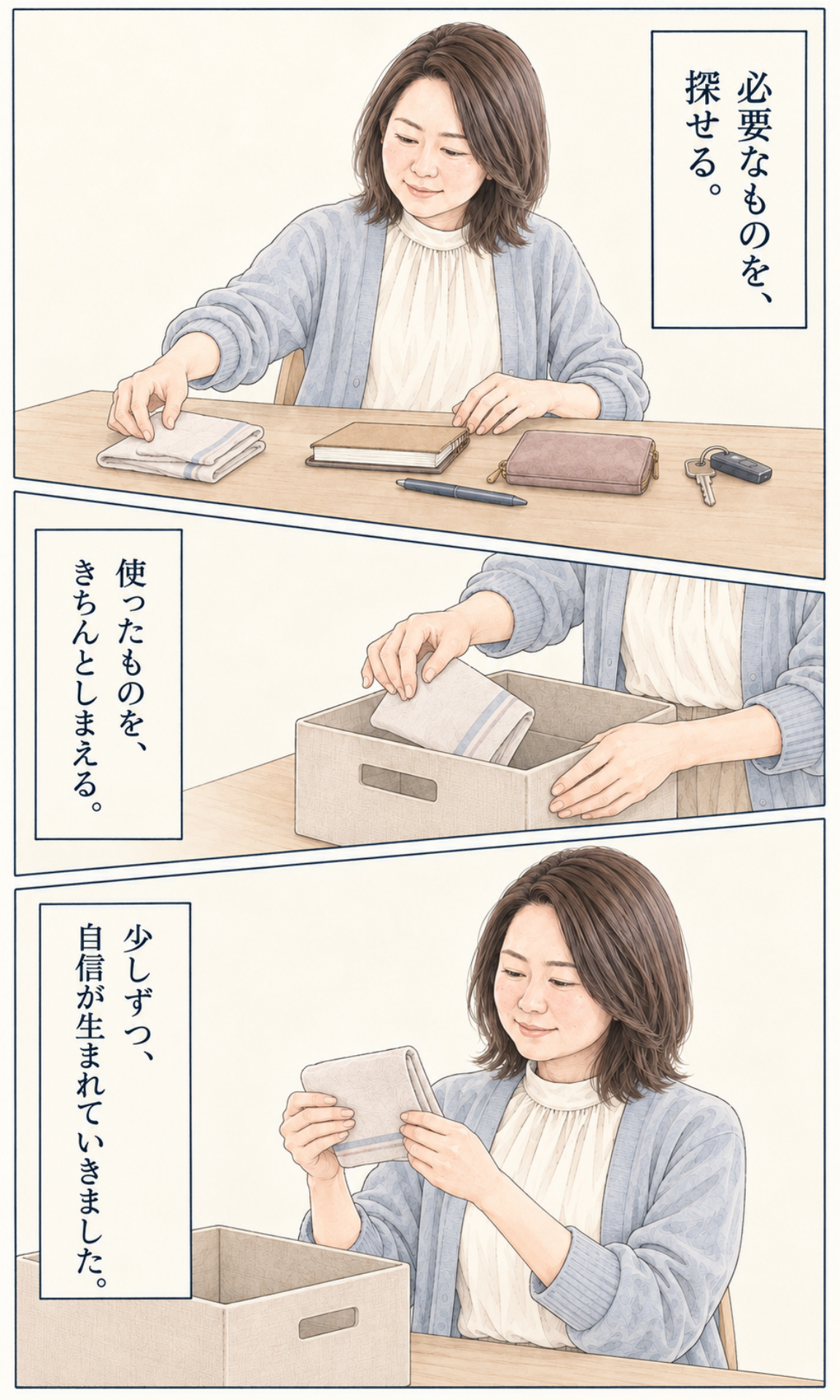
子どもが散らかすと、
またイライラ。



散らかった部屋では、
掃除をする気にも
なれませんでした。




育児休暇中、
片づけの資格が
あると知りました。
始まりは、
本当に軽い気持ち
でした。
その学びが、
私を変えてくれました。


必要なものを、
探せる。
使ったものを、
きちんとしまえる。
少しずつ、
自信が生まれていきました。

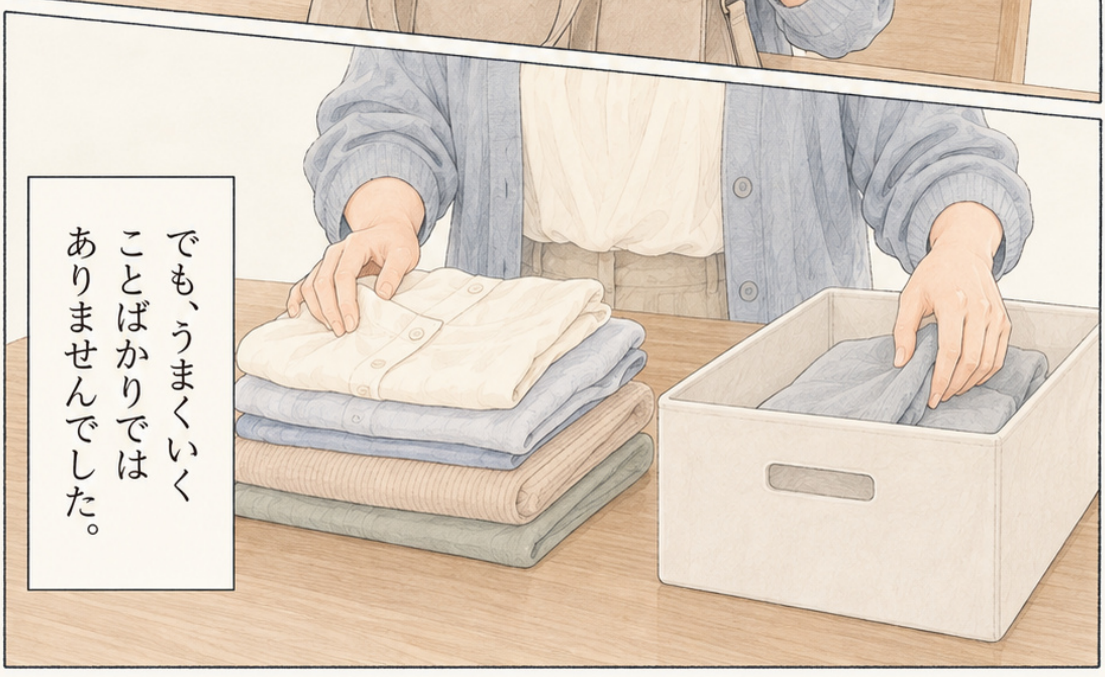


そんなふうに、
思えるようになったんです。

やがて、お客様の
片づけをお手伝い
するようになりました。







でも、うまくいく
ことばかりでは
ありませんでした。

何度か通っていた
お客様。






途中で、
サービスは終わりました。


本当に、
落ち込みました。


なんで同じことを
伝えているのに
響かないんだろう？



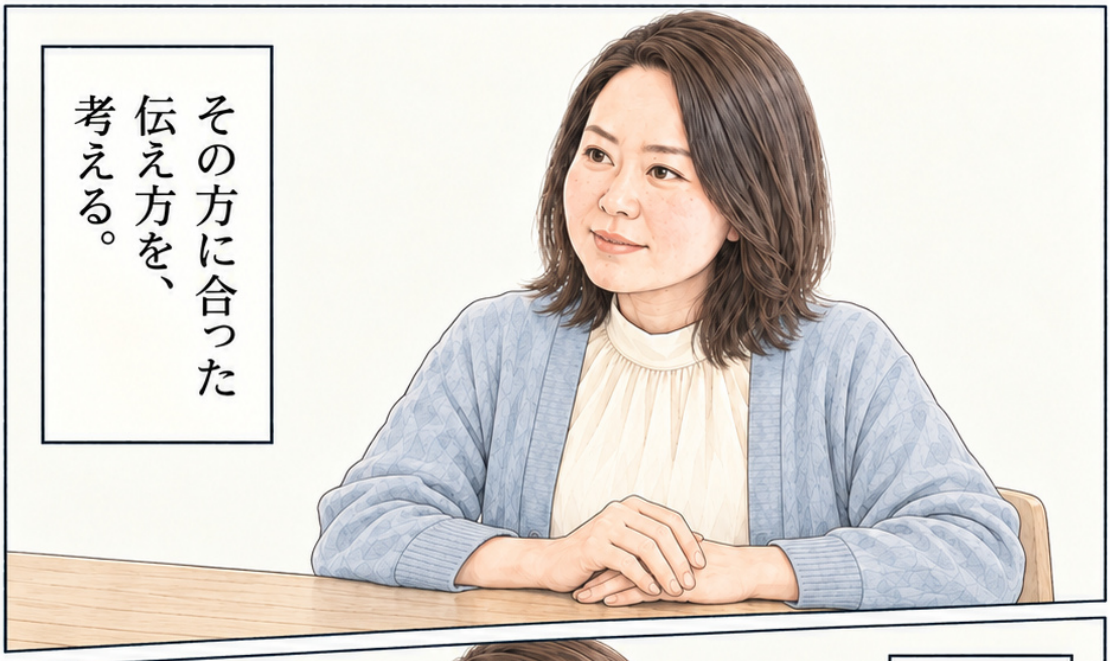

知識も、ヒアリングも、
足りなかったのだと思います。

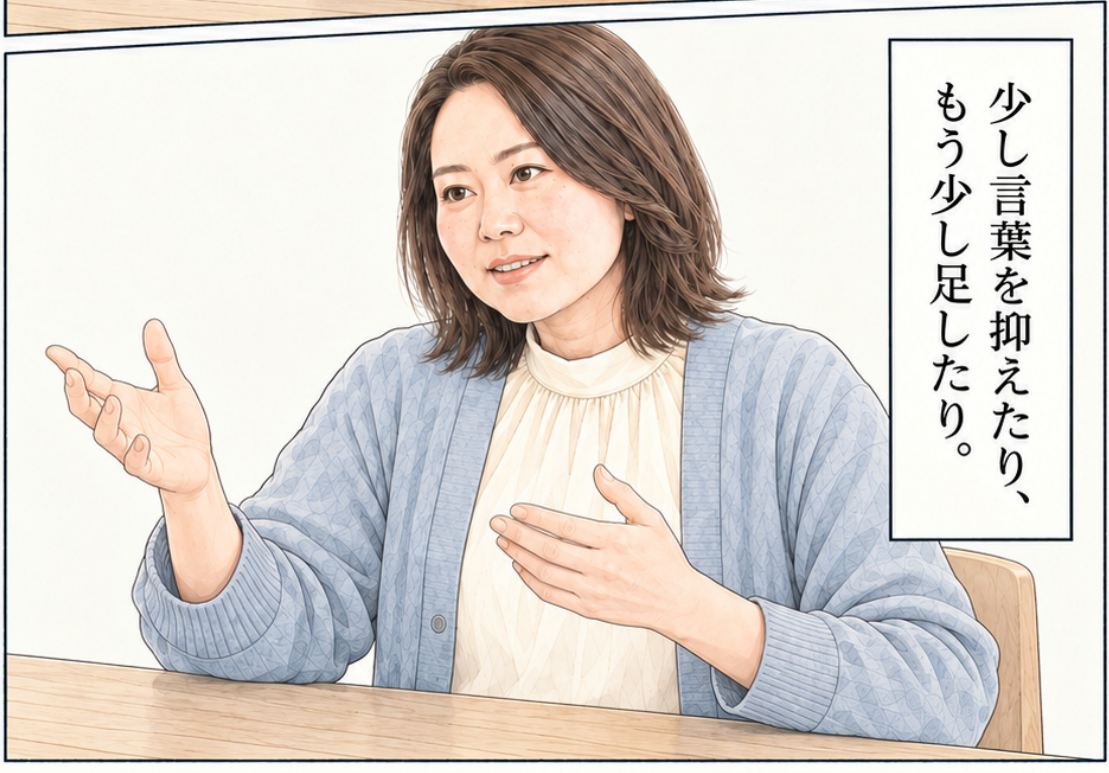

その経験から、
人にはそれぞれ
タイプがあると
知りました。




エニアグラム心理学
との出会いでした。


同じ方法を、
そのまま伝える
のではなく。

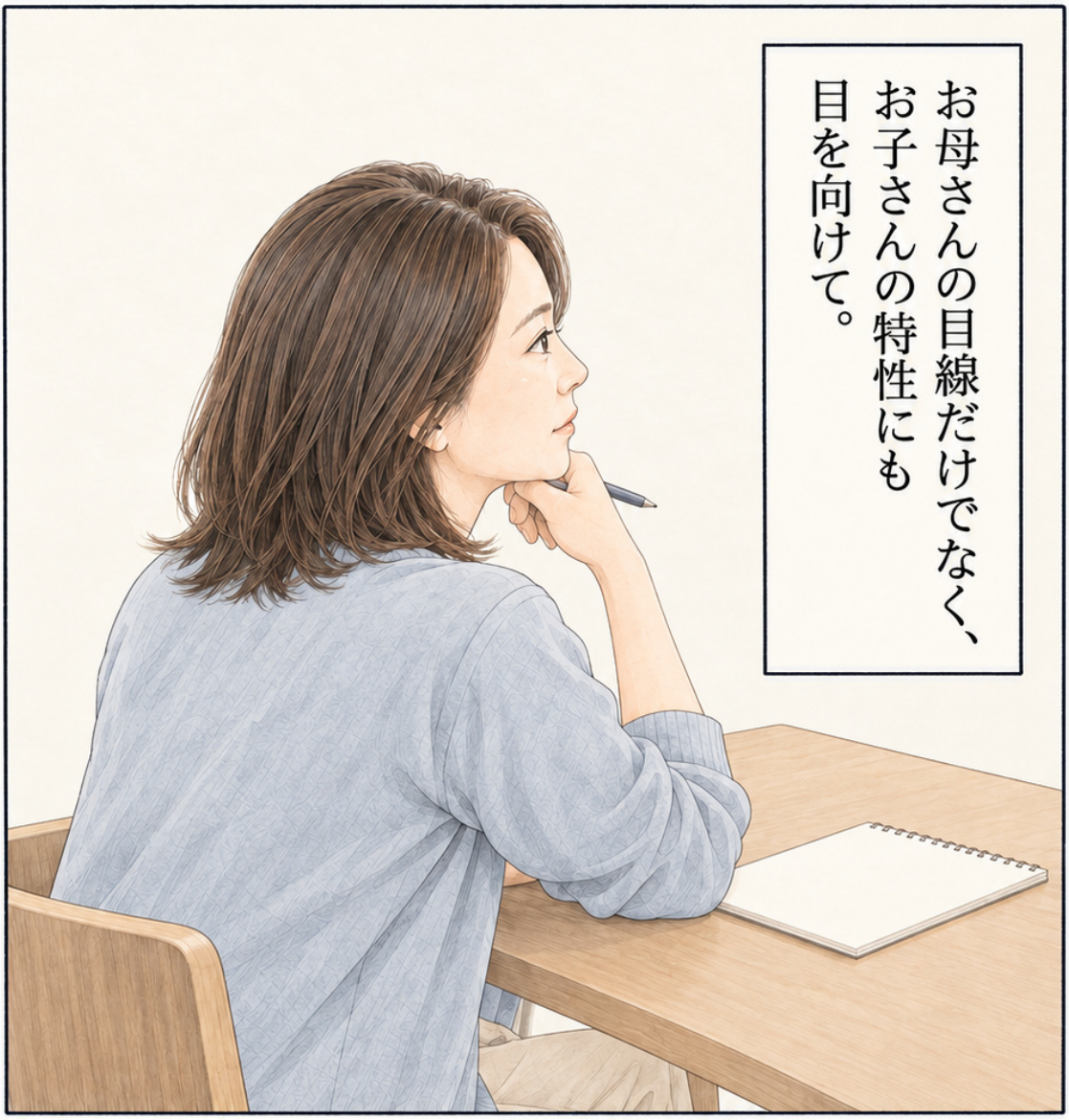

その方に合った
伝え方を、
考える。

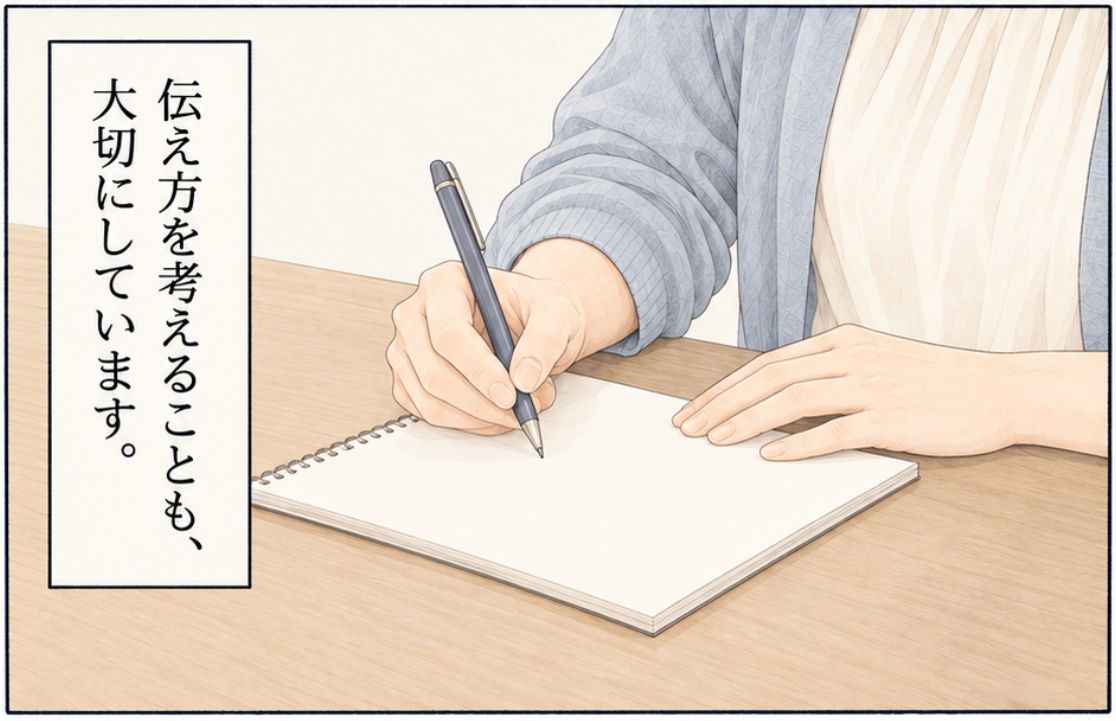

少し言葉を抑えたり、
もう少し足したり。


たとえば、
思い出の品を
手放しにくい方には。


無理に
捨てなくていい


長い時間、
集中するのが難しい方には、
短い時間で。
無理なく取り組める形を、
一緒に考えます。


お母さんの目線だけでなく、
お子さんの特性にも
目を向けて。


伝え方を考えることも、
大切にしています。


札幌市近郊では、
訪問して一緒に
片づけを。
遠方の方には、
オンラインでも
お手伝いしています。

片づけは、手段。





自分らしい毎日を、
取り戻すお手伝いを。



ご相談は、このページの連絡先から。